

## 「眠ること」

立教新座中学校・高等学校チャプレン 石田 雅嗣

激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。(マルコによる福音書4章37-39節)

上記の聖書箇所では、イエスが枕をして眠っておられますが、眠っているといたしますと、私も、立教新座高校で授業を担当していて、授業中に眠っている生徒がいます。そこで、叱ろうと思いますが、私は、父が海外でも活躍したスポーツ選手の先生だったときの話を思い出して、叱ることはやめています。私の父は、ある有名なスポーツ選手が普通の一人の高校生のときの英語の授業の先生だったそうです。そして、この高校生の英語の授業態度は毎回爆睡していたそうです。あまりにひどかったので、叱ろうかと思ったのだけど、あそこまで寝るには、なにか理由があるだろうと思って担任の先生に聞いてみたそうです。そうすると、この生徒は全国大会常連の部活動に所属していて、かなりの素質があるのだけれども、素質だけではなくて、ものすごい努力をしていたそうです。夜遅くまで練習していたそうで練習状況を聞いて、それだったら、英語の授業中にも爆睡することは仕方がないかなと思って、そのまま爆睡させたと言っていました。あの生徒が海外でも活躍するほどのトッププレーヤーになって、英語をつかって仕事していることは信じられないし、たぶん、あの英語の能力に自分の英語

の授業は何も役に立っていないけれども、授業だからと言って、無理に起こして、練習のときにけがをしたということがないように、この生徒の練習の環境を整えることができたのは、かえってよかったと言っていました。私たちはどうしても見た目とか、表面だけで判断してしまいがちです。この生徒も授業で爆睡する、先生をなめた生徒という、見た目で見えるものの背後に目に見えないものがありますので、それに目を向ける必要があります。

上記の聖書箇所でも、イエスが枕をして眠っておられますが、イエス様が寝ている姿の背後にある神を信じる者の姿をみることができるといえるかということです。全てをゆだねて平和を生きている姿、あるいは、どんな恐ろしい現場でも信じて眠っている姿。それこそが目に見える姿の背後にある神が守っているということのしるしであると思います。ですから、この聖書箇所でも、よく「突風を静めた奇跡」と言われて、イエス様が「黙れ。静まれ」と、命令したら静まったというところに焦点がいきますけれど、私はその直前の荒れる海の上でイエスが寝ている姿に焦点を合わせたほうがよいと思います。人生には、まったく闇に包まれて、もうダメだっていう現場があります。夜の嵐の海で揉まれるような体験もあります。でも、もしもそんな中で枕をしてぐっすり眠る、そんなことが可能ならそれこそ完全な平和ではないでしょうか。イエスと一緒に向こう岸に着くまでぐっすり寝て過ごしているわけです。そんな信頼、安心、そういう信じる姿を見ることができたら、それを見た人々も信じてゆだねるような、そういう学校生活・信仰生活を過ごしていきたいと思えます。